

第13回市民ふれあいトーク―地域力を活かすまちづくり―

日時 平成22年6月10日 18:30~20:00

場所 琴浦公民館

《市長》

お忙しい所に多くの皆様にお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

昨年、一昨年と各地区ごとに、この市民ふれあいトークを行ってきたわけですが、一周まわりましたので、今年度から公民館単位での開催が始まったわけでございます。今日八時までの間、お付き合いをお願いしたいと思います。

最初に、私の方から児島の地域の現状、市政報告、課題や今進んでいることなどにつきましてお話をさせていただいて、その後、みなさんからぜひ活発なご意見やご質問をいただきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

この児島地域で、今みなさんが目に付いてくださっているのが、児島の駅前のことではないかと思えます。児島の駅前は昨年4月に、新しくオープンをいたしました。しばらくの間、工事が止まっていたのですが、うまく再開することができまして、今、児島駅は、岡山県内で岡山駅に次ぐ二番目に大きな駅となっております。ですので、これをもっと活用していけるようにしていきたいなと思っていますし、今日ぜひ、みなさんからのご意見をいただきたいなと思っています。

その児島駅前でありますけれども、普通の駅前ということだけではなくて、いろんな行事の際に、芝生の上で座ってものが見ていただけるようにと、ちょっと芝生の場所を増やしました。

そして、そのすぐ近くに、今ちょうど児島の市民交流センターの建設を進めています。これは、国の「まちづくり交付金」という制度を使いまして、架橋記念館とその横の土地を活用いたしまして、今までありました児島の図書館、公民館、勤労青少年ホーム、婦人の家、そして労働会館と、まとめてこの場所に作ることにによりまして、よりいいものにしたという思いで作っています。

今の予定では、平成22年度中に建物はなんとかできる予定であります。まだ、周りの工事や内装の工事とかがありますので、実際のオープンは23年度の途中ぐらいになってしまうと思いますが、非常にいいものができるように、今頑張っております。

「晴れの国、児島」ということで、太陽光発電を入れましたり、芝生の部分を入れましたり、そして、一番変わったなと言っただけなのは図書館の部分ではないかと思えます。今まで児島の図書館は図書の蔵書の数、他の地区より少のうございました。水島の図書館が14万部、玉島は16万部という所で、児島は13万冊ぐらいが一番少なかったのですが、この度は図書館のスペースを、十分とれるようにしまして、本もずいぶん増やして、19万冊を超える本を収納できるようになる予定であります。それから、車いすの方なども通りやすいようにしまして、本当に子どもさんから地域のみなさんまで、是非とも楽しんで通っていただけるものになるように今、努力をしている所であります。

そして、さっきも行ってきましたが、唐琴の浜の養浜と防災の対策事業がなんとかほぼ完了をしてきてよかったなと思っています。これは長年、県と倉敷市の間で進めてきたわけでございますけれども、最後、倉敷市の排水の部分の工事が進まず、数年間工事が遅れていました。私が市長になりまして、確か一番最初に現地視察にこの浜を拝見しに来た

と思います。これから浜の活用について、県と地域のみなさんとうまく知恵が出していけたらなと思っている所であります。

そして、地域の大きな事業としては、魅力を伸ばすという面では、ジーンズストリートの推進、商工会議所、地域の事業者のみなさんをはじめ、一生懸命取り組んでいただいて、最近では児島のジーンズがテレビで取り上げられる機会が非常に増えてきたと思います。芸能人の方が出る番組などではけっこう取り上げてくださって、人がもっと来ていただけるようなまちに少しずつでもなっていくように、私どもも努力をしていきたいと思っています。

そして、鷺羽山、それから王子が岳、この二つの大変重要な児島の魅力を、しっかり伸ばしていきたいなと思っています。鷺羽山の方では、駐車場の部分の改修や、下電の前の駅に抜ける道などについても、今、設計をしております、数年はかかるとは思いますがけれども、人が鷺羽山を歩いていただきやすいような場所にしていきたいなと思っている所であります。

そして、地元の産業という面では、児島の駅前にある旧マウントフット大学が、しばらく空いていたのを、わがまま工房の皆さんに使っていただいて地元の産業や繊維のPRをしていただいていたのですが、そこを児島の産業の発信の拠点にしたいと思って今、計画を進めている所でございます。

そして、最後はなんとといっても市民病院のことです。私が就任をいたしました時には、どうなることかと思っていたわけですが、なんとか岡山大学系列病院に何回もお願いに行って、院長先生をはじめ、内科の先生、それから消化器の内科の先生が来てくださることになりました。また、産婦人科については復活が出来る状況になっていないというのが非常に厳しい状況でありますけれども、引き続きお願いをしながら検討しているのが、今の状況でございます。

本当に児島の地域は魅力が沢山ある所だといつも思っております。繊維の産業、そして日本でも有数の企業がたくさんいらっしゃいますし、そしてこの風光明媚な場所にあって観光客の方が来ていただける素地が大変あると思っております。もうちょっといかにして人が来ていただきやすくできるかどうかをみなさんと一緒に考えていきたいと思っている次第であります。まず各地区の課題、それから取り組んできたこと、ということで少しお話をさせていただきました。

それから来年11月、12月あたりの年末ですけども、倉敷駅の北側のチボリ公園跡に、イトーヨーカ堂さんが新しく商業施設をもってこられることになりました。そこには、三井不動産という会社がアウトレットも一緒にされるとということで、中四国からかなりの人が来るという見込みになっております。是非とも、倉敷の美観地区だけではなくて、児島の魅力も一緒に発信をして、こっちに人が来てもらえるように頑張っていきたいなと思っています。商工会議所のみなさん、地域のみなさんと協力をしながら、是非みなさんの意見をいただきながら、進めていきたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、今から約一時間の間にみなさんが思っていることを、もちろん児島だけではなく、魅力を発信するにはこうしたらいということなどをぜひともお話をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

《参加者 A》

児島の駅前と児島の市役所の前の曲がり角、三叉路がすごい汚い。僕はタバコを吸いませんからよけいタバコが気になるんです。正月といたら各地から帰ってきたりお客さんがくるでしょう。だから、三角のコーンを立てて一生懸命掃除したんです。駅前と市役所にまがる三叉路の交差点、マクドナルドがある所が非常に気になるんです。

《市長》

市の清掃の方もしっかり頑張りますけれども、ぜひ地域のみなさんに置かれましても、身の回りを綺麗にする運動などをご協力をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。今のお話と少し関係あるんですけど、清掃を各町内で行っていただいたり、コスモスを植えて綺麗にさせていただいたりとか、けっこう町内で取り組んでいただいて、それが市内で、この児島でこういう風になっているから玉島でもやろうとか、広がっている所がありますので、是非それぞれに取り組みをお願いしたいと思います。

《参加者 B》

先ほどのジーンズストリートの件なんですけども、ジーンズバスというのが走っていて、児島の駅が発着になってると思うんです。倉敷の駅から児島へのアクセスが非常に悪くて、ジーパンを買いたくてもこっちまで普通のバスで来ないといけないみたいですね。テスト的にできるのであれば、倉敷駅の発着でジーンズバスを走らせることができればいいなと思っています。

王子が岳とか鷲羽山などもありますから、言ってみれば倉敷発着の「はとバス」のようなものをテスト的にやってみればいかなと考えております。

《市長》

ジーンズバスだけではなくて、来年、全国から人が来るような施設が出来るので、児島のことが倉敷地区の中でも、もっと分かりやすいように、目に見えるようにできればと思っています。ひとつ考えているのが、ヨーカ堂などの中でも倉敷市内の名産を取り扱ってもらうコーナーを、必ず置いてもらいたいと言っています。どういう形になるのかはわからないんですけども、その中にはジーンズのことでも必ず取りあげてもらいたいと思っています。バスについて、すぐは難しいかもしれないんですけど、方向としては私もそういう方向にできればいいなと思っています。とにかくジーンズバスが倉敷市内全体を走ればもっと人の目に付くと思いますので、考え方としてはそのとおりでと思います。

《参加者 C》

市の障がい福祉課のほうで25年度までの障がい福祉計画を立てているのをインターネットで、読ませてもらって。僕は当事者として、現実味がないなあという思いです。統計のグラフに出ていたんですけど、あれも根底まで踏み込めてないというのをずっと感じていたんですが、今日メーリングリストで内閣府の推進会議の第一次意見が届きまして、それの方がよっぽど僕らにとっては身近な話で、差別とか教育とか深いところまで踏み込んだ話になってたんで。障害者権利条約に批准するっていうこともあるし、委員のほとんどが当事者団体の代表ということで、踏み込んだ意見が出されているんじゃないかと思うので。来年度、自立支援法を撤廃する際に、また作り直さなきゃいけないと思うんですが、そのときに考慮いただけたらと思います。

それから一つ、児島自慢をさせてもらえば、児島の「障害者支援センターはばたき」は、よそに先駆けて精神のピアカウンセラーを去年取り入れていただいて、精神の普及活動の出前講座をしていただいているんですが、寄島の支援センターや玉島とかプラザの中にもありますけど、そこよりは進んでいると、思っているんです。それをもっと児島の支援センターの中でプログラムとして確立させていってほしいということと、倉敷市内にどんどん広げて欲しいということです。今、障がい福祉計画のなかで25年度までに精神の相談員を6人作るということが載っていたんですが、25年度じゃ遅すぎるんです。今すぐでも必要としているんで、早急にやっていただけるようお願いをしたいと思います。

《市長》

精神障がい者の方の福祉計画なんですけども、初めて作ったということがありまして、それで十分な計画ではない部分も、実際に見られてあるのかもしれないと思います。それから自立支援法の関係のときには改正が必要になってくるかと思っています。まず市民のみなさんがどういう障がいがあっても、普通にまちに出てきていただいて、他の方も普通にみなさんと一緒に活動できるという社会になればいいなと思っているんですが、まず、その精神障がいの計画については、計画すらなかったのがよくなかったかと思っています。まず、その計画を作りまして、その地域で精神障がいの方のことが分かっていたらいいようなサポーターを作っていくということを今、計画の中に一番に入れております。支援の相談員についても、前倒しをしてやっていきたいと思っていますが、まだ今年度から取り掛かったばかりですので、長い目で見てやっていただけたらと思いますけれども、倉敷市としても、計画でちゃんと取り組みをすることを宣言したわけですので、これまでよりはしっかり取り組みをしていきたいと思っています。

《参加者 D》

今の関連なんですけども、僕も仕事の関係で児島と玉島と水島の知的障がい者の方の作業所へ行かせて頂いた経験があるんですけども、建物にしろ、設備にしろ、本当になんでこんなところでという状態です。市長は現場主義ということで、一回ぜひ行ってみてください。みなさんがどういった形で作業をされているか。よろしくをお願いします。

《市長》

はい。わかりました。

《参加者 E》

今、多目的に使えるトイレが非常に少ないと感じます。どっから見ても障がい者だと見えない人が障がい者トイレに入って出てくると、奇異な目で見られます。やっぱりそれは数が少ないからだだと思います。体調がよければ普通のトイレに行けるんですけど、その日の体調によって普通のトイレでは用を足すのがとても不便に感じる場合があります。児島の図書館には今度、車いすで入ったらUターンできるような広い通路を考えて下さったそうですが、お手洗いに関しても洋式のトイレを増やしていただくとか、「どなたでもどうぞ」と、ひとこと書いているトイレには入りやすいんです。障がい者にとって「やさしいまち」というのは、必ずこれから増えつつある高齢者にとってもやさしいトイレで、やさしいまちになるんだと思うんです。よろしくをお願いします。

《市長》

「どなたでもどうぞ」ということは今の所はあんまり書いてないんですかね。

《参加者 E》

くらしき福祉プラザには、そういう方が使えるトイレの数も多いです。それから岡山市の国立病院の跡地のきらめきプラザに行くと、「どなたでもどうぞご利用ください」って書いてある所が多いので、そういうトイレがたくさんあればいいな。障がい者が出掛けてる時に、やはりすぐくトイレの問題で一步ひいちゃうんですね、だから、精神の方も、障がいのある方、車いすの方、杖の方も普通に出来るように、また、外国に行きましたら結構、車いすだとか杖の方が旅行に出掛けているのを見かけますのでそういう方も来てくださるようなまちになるのが理想ではないかなと思います。

《市長》

今度作ります市民交流センターには、多目的トイレは必ず作ります。これから作るものについては、ほとんど洋式トイレになりますし、多目的トイレにつきましても、表示をどうするかはこれから検討できるはずですので、「どなたでもどうぞ」と書いたり、わかりやすいようなものにしていきたいと思います。

それだけではなく、できれば分かりやすいようにと思っていますのが、「トイレがここにあります」とか、「トイレを貸します」という所が多くあった方がいいと思いますので、観光の面からも「トイレを、お店やさんだけ貸しますよ」などという表示をしてもらうのを、検討しているところであります。公共施設についても多目的トイレはもちろん増やしていこうと思っていますし洋式トイレだと思っています。頑張ります。いっぺんには難しいかもしれませんが、だんだんにやっていこうと思っています。

《参加者 F》

児島駅に降りたときに、一番寂しいと思うのは、商店街がないことだと思うんです。せっかく駅前に立派な駅が来ても、商店街と連動していないことが、一つの大きな町の魅力を損なうことではないかと思うんです。昨今どこのまちに行っても駅前の商店街が非常に寂れています。郊外型の大きなショッピングモールができて、そこに行けば何でも用が足せる。そのためにだんだん駅前の商店街が寂れていく。岡山でも奉還町商店街が、今、活性化しようと考えられているようですが、私が思う本来のまちのあるべき姿というのは、私たちが子どもの頃にあったような商店街があって、その商店で私たちが何でもお互いを買ったり買われたりという関係の中で、町全体が栄えていくというのが本来のまちのあり方ではないかなと思っています。当然のことながら、お金も地域で回るようになるわけですから、その地域で活性化していくことじゃないか、というのが一つ。

あともう一つは、われわれ世代がどんどんこれから退職して、児島公民館にさえ来るのも、住んでいる所が非常に辺鄙な所で、出て来られないという方がたくさんおられます。高齢化して自分で運転もできないし、バスもないという状況の中で、楽しみにしていたことを止めてしまうと。倉敷はコンビナートを控えて、一時は大々的に大きな団地が造成されて、そういう団地の多くが山を削ったり谷を埋めたりという形で、非常に交通の不便な所に団地ができていっているように思います。そういう所に住んでおられる方が、若い時はよかったんですが、これから高齢化社会に向かっていくにつれて、次第にそういう所に住みづらくなってきたのではないかと思います。

それから、私は「子育てサロン」というのをやっています。若いお母さんたちが、子育て

てに一生懸命なんですけども、おじいちゃん、おばあちゃん世代と交流が少ないということで、いろんな知恵を聞かせてもらったり、心休まるような話をしてもらったりということがないので、せっかくできる市民交流センターを中心とした、高齢者と子育て中のお父さん、お母さん、赤ちゃん、みんな一つに集まって人と人のふれあいができるようなセンターの活用の仕方があるのではないかと思います。これからのまちづくりの中に、商店街を活かして使うと同時に、そこに来れば何でも用が足せるというような形で、先ほどの話の巡回バスを増やすとか、対策をしていただければ、出て行きやすくなるんじゃないか。そして、味野の地域に行けば病院も銀行もあるし、買い物もできるし、人と人がふれあうこともできるというようないろんな形で人が触れ合える場が作れるのではないかと思いますので、ぜひとも考慮の中に入れて、倉敷市全体が活性化できるようにお願いをしたいと思います。

《市長》

市民交流センターのことについて、町の中心としての活用ということでご言ってくさったんですが、交流センターのことについて、みなさん、こういうふうに使ったらいいんじゃないかとか、駅からの連携とか、そういう面について何か思っていることがあったら教えていただけませんか。

《参加者 C 》

交流の面というのにちょっと関係して、少し前に厚生労働省から生活保護受給者の自殺率が一般の3倍ある。それはうつ病患者が増えたせいだという話になってたわけですけども。生活保護受給者は生活は保障されていて、今の時代では過ぎるくらいの保障がされているのではないかと思うんですが、生活保護受給者であるがゆえの規制があって、行動範囲も狭くなって閉じこもりがちになったり、そういう人達が多いんです。そういう人達は暇が多いですから、自分が生きている意味とか存在価値をしょっちゅう考えるんです。特にうつ病患者にとってそういうことを考え出すと、社会のお荷物だということに至りがちだと思うんですね、それが自殺者が3倍ということに反映しているんじゃないかなと僕は思っているんです。そういうのをどう解決したらいいかという、公民館で、老人・高齢者・障がい者も一緒に集える場所作りを、すぐには人は集まらないかもしれないですけども、常時あそこに行けば誰かいるということになれば集まりやすいんじゃないかと思うし、地域のコミュニケーションが取れだして、孤立化も減ってくるし、自殺防止対策にもなるんじゃないかとも思うし、せっかく学区担当の保健士さんも復活したわけですから、保健士さんの積極的な訪問活動、生活指導というのもプログラムに入れていただければ、社会参加に繋がるんじゃないかと考えております。お願いします。

《市長》

簡単に言えば、公民館の大きいのが市民交流センターとなるのかもしれないけれども、市民交流センターはこの度は一階に入って、一番良い所は図書館にと思っています。そして2階にもあるんですけど、入ってすぐの所に子どもさんの図書のコーナーみたいな、裸足で子どもが本を読めるような所を置きまして、だんだん大人の本があるようにと思っています。子どもさんもみんなの目に触れて安心して本も読めるし。おじいちゃん、おばあちゃんとも一緒に、地域の皆さんとも触れ合ってもらい易いような配置にしたつもりなんです。図書館といえども、交流の場になればいいなというのがあります。

それから今、公民館などで毎年やっている講座も多くなっています。できれば健康とか、

自分を発見するとか、自分のやりたいことをもっと発見できるような講座をやることによって、人とコミュニケーションができて健康になってもらえるような講座をもっと増やしてもらいたいなと思っております。公民館というのはまさに人の交流の場所だと思っていますので、頑張っていきたいと思います。

《参加者 G》

今回、ライフパークで大学の先生方が来られて講座をされるというのをメール配信でいただいたんですけども、市内にたくさん大学がありまして、先生方もたくさんいらっしゃいます。その出前をする出張講座みたいなものを定期的にやっていただけたらうれしいと思っています。特に医療福祉系の大学が遠いので、できたらこっちまで出前していただけたら、日々の健康についてとかいろいろ聞きたいこともあるし、そういうのができるんですけど、そこまで行くとすると足がない人は特に大変ですし、僕らは車で行くと1時間近くかかりますし、そういうのを増やしていただければと思っています。

《市長》

大学連携講座を行うというのをつい一昨日くらいに発表した所なんですけど、数が足りるかわかりませんが、資料を後ろに置いときますので、ぜひ持って帰っていただきたいと思っています。今、倉敷市内には、大学、短期大学、それから職業能力開発大学校、と10個の高等教育機関がありまして、ここ児島には市立短期大学がございます。この10個の大学の知恵をもっと市民のみなさんたちが使い易いようにしたいなと思ひまして、この連携講座を始めることにしました。

7月に第一回目を行おうと思っています。記念すべき第一回目は、市立短期大学の先生の講座になっております。「親子で一緒にバルーン遊び」ということで、今のところ場所としては、ライフパークで行うことになっています。まずライフパークでやってみようということで、作陽、川崎、岡山学院大学の先生がいらっしゃって講座をしようということになっております。市内の大学の先生が各公民館で、講座を持ってもらえるというのは非常にいいアイデアだと思いますので、実現できるように頑張っていきたいと思っています。

《参加者 H》

私の提案は、「シルバーによるファッションブランドの創造」というテーマです。超高齢化社会になってくるわけです。そこで、その人達に少しお洒落にしませんかと。特に児島の人はお洒落だね、実際若いよと。それを手作りで自分たちでやりませんかというのが私の提案です。「地域力」というのは、児島には縫製技術があり企画力、デザイン力が十分ありますが、リーダーシップとかいろんな問題で生きてないんだと思うんです。ファッションセンターやわがまま工房があり、市立短大の服飾美術科というのがあるんですが、この服飾美術科の先生方でもいい先生がたくさんいると思うんですけど、こういう人達が、「児老連」、児島老人会連合会の方と一緒にやってませんか。児老連なんかでも、ものすごく元気なんです。児老連の婦人部会ができた、老人会の若者部会とか若者委員会とかいたりして、70歳以下の人でなんか新しいことをやるんだとか。そういう人達の力をぜひ使いましょうということです。進め方はまず自分たちで作って、デザインコンテストのファッションショーをしてまちを歩きます。将来的にはそれが、健康につながる。家に閉じこもっている人が少し良いファッションでまちへ出ていきませんかという、健康にも繋がるし、観光にも繋げたい。その児島のファッションショーを、ぜひ坂出の人が

見に来たいと。ファッションショーだけではなかなか人を呼べないかもわからないですけど、B級グルメとか、一緒にやりませんか、と。もう年商30億ですわ。年商30億で千人の雇用が生まれる。30億と言うと、馬路村がありますよね。

《市長》

高知県の馬路村ですね。

《参加者 H 》

人口1,200人でゆずを作って、20年30年かかって年商40億になってるわけです。まず、児島では10年くらいの計画で、着実にブランドを作っていく。素敵なデザインがあるんです。イタリアとかニューヨークとかが老人服を素敵だなというブランドを作りたいと。

《市長》

シルバー力というのは、これからの人口のうちで何割も占められる一番パワフルな層にますますなっていくと思います。今度、児島の産業振興プラザの中ではいろいろな資料ができるような場所を、設けようと思っています。あのマウントフットの跡地で若手の方たちが事業を起こせる、もちろんミドルやシルバーの方もそこで事業ができる、そういう所も活用できたらいいなと思ったんですが、「シルバーファッションタウン」という着目点は素晴らしいなあとと思ひまして、児島でシルバーに特化した服っていうのは今あるんでしょうか。

《参加者 》

今はない。

《市長》

今は無いんですね。そういうものとかもっと進めばいいと思います。シルバーの観点から地域力を活かすということも検討してみたいと思います。

《参加者 I》

伊東市長さんは玉野の深山公園に行かれたことがありますでしょうか。

《市長》

一回あります。

《参加者 I 》

私も、日々の生活をいきいきと過ごすために、健康づくりと外のコミュニケーションを大切にしております。そのため、玉野の深山公園によく行きます。今年のGWでは県内で三番目に多い10万8千人、対前年3万人の人出と新聞で報道されておりました。深山公園には自然の緑も多く、広場もあり遊歩道もあり、整地されているため、高齢者、子ども、家族連れの人など多くの人が集まり、活気があります。地域活性のためにも琴浦地区に深山公園のような場所があればと思っております。王子が岳などが活用できるのではないかと思っております。今日は、琴浦地区に限定をして考えてきました。

それからもう一つ取り組んでおりますのは、生き甲斐づくりです。琴浦地区では、その拠点として琴浦公民館がありますが、先日訪問した時、三階で婦人会の多くの方が健康体操をされておりました。しかし、床がコンクリートでしたので、せめて体にやさしい木製の床にしてあげたらと思ひました。ちなみに、地区公民館としては、真備と並んで一番古く、昭和47年に建設された建物のように、38年も経っております。平成20年の統計

資料で見ると、地区公民館での利用者が一日114人で、二番目に多いのにびっくりいたしました。岡山出身の京セラ相談役の伊藤謙介氏が山陽新聞で、「人生を語る中で、文化力のある所に産業も含め、いろいろな花が咲く」と述べられております。きっと琴浦地区には、将来、花が咲くのではないかと考えております。その花にも以上二つのことを市長さんに考えてもらったら有難いかなと考えております。

《市長》

深山公園、本当に素晴らしい所だと思います。ここ琴浦地区から近い所といえば、やはり王子が岳です。王子が岳は、私はもっと活用しなければいけないと考えております。地域のみなさんはもっと思っているんじゃないかと考えていますけど、今、鷺羽山と王子が岳で、夕日のコンサートだったり、そういう、けっこう人が集まってくださることを、みなさんと一緒にやっているわけですが、もっと常日頃から王子が岳に人が来ていただけるようにできればいいなと考えています。ただ一度に全部できないもので、児島地区の中ではまず、鷺羽山の方が先に取り掛かっています、王子が岳の方も計画を検討しなければならないと考えています。それと王子が岳についてはもう一つ、玉野とよく相談してやらないといけないと考えています。王子が岳に登って、夕日のコンサートを見るときには、両方で管理の仕方が違うようですので、今のままではまずいと思っている状況なんで、鷺羽山と共に人が来ていただける、もちろん安全の面もしなければいけないと思いますし、もっと取り組みをしなければならないという気持ちを持っている所です。

それから、生き甲斐づくりで健康のことを、この琴浦公民館でもしていただいているということで、築38年と伺いました。決してものすごく古いわけではないんですが、それぞれの公民館に行きまして、私が思いますのは、市の公共施設はどこも今、結構古くなってきています。昭和40年代は、高度成長で結構、市もお金があったので、どんどん作っていたわけですが、その後の手入れがなかなかうまく出来てないのが現状だと思っていて、それが一番まずいと思っています。各公民館、図書館、学校とかの施設について、途中でメンテナンスをしておかなければその長寿命化が図れないので、それを早めに何とかしなければいけないと思っています。確かに、来るたびに床が一部剥げていたり、天井にちょっと雨漏りの跡があったりというのを見ますと、非常に心が痛くなるわけですが、それをどうするかというのは今検討している段階です。

Iさんが言われたように、公民館が地域で一番身近な健康づくり、生き甲斐づくりの場所だと思いますので、今日公民館の担当者も来ておりますので、一緒に考えて、みなさんが使っていただきやすく、なるべく長持ちすることを考えていきたいと思っています。貴重なご提言ありがとうございます。

《参加者 F》

私は小学校3年生の時に初めて鷺羽山に来ました。その頃の鷺羽山はまだ松の木が背が低くて、半ば花こう岩が風化したものが丸見えのような状態で非常に景観的に変わった山だと強く印象を持ったのが最初です。あの海にあの木、山から見た海の景色の広大さ、この素晴らしさは子供心にも強く心に残ったのを今も記憶しています。何箇所か世界各地を見てきましたけれど、ここに勝る所はざらにはないと思っています。昭和9年に日本で初めて国立公園に指定されたのも、おそらくそういうことが背景にあったのじゃないか

と思います。この度ジッターセンターが倉敷の管轄下になったのですが、今、倉敷の観光といったら誰でも一番に挙げるのは美観地区です。本当は美観地区より昔に観光地として指定された鷺羽山が、美観地区よりは観光客が少ないっていうこの現実を考えたときに、聞けば美観地区は私が倉敷に来た当時は、あんな町並みはなくて、古びた崩れかけた家ばかりだったんです。あれに手を入れて、ある意味では人口的に作り直した町並みにしたんですね。当時、観光の方で一生懸命やられとった人は、「私らは、大阪や東京に何度もキャンペーンで足を運んでやっと雑誌とかに取り上げていただけるようになって、一躍倉敷が時代の波に乗って、持てはやされるまちになった」というお話でした。玉島の観光協会の方とも知り合いなんですけど、やはり観光を一生懸命にやっておられるんですけど、人が来ない。活かして使えていない。結局倉敷の場合は、観光に関して言えば「宝の持ち腐れ」という状態じゃないのかなと。これを活かして使う方法をやはり真剣に考えて、人が来てくれると。そのことによってまちが活性化するというまちづくりでなければいけないと思います。簡単に人を呼ぶわけにはいかないかもしれないんですけど、ぜひ倉敷もPR活動に力を入れてやっていただければ変化していくんじゃないかということと、それから倉敷は三市が合併してできたんですけど、未だ三市が連携を取っていないから繋がってるということがないんです。真備や船穂にはそれぞれいい所、素晴らしい所はあるんですけども、それぞれが単発になってしまっているのを有機的に連携して繋げていけるものを観光という面で使えないかと思うんで、これは児島だけの話じゃないですけども、そういうものがあれば、みなさんまた協議をしていただければと思います。

《市長》

ありがとうございます。観光のことで何かあったらお願いします。

《参加者J》

観光のことでこれから提案するのに、鷺羽山、王子が岳と出たんですけども、国立公園もう一つあるんですよ、由加山が。この話がぜんぜん出てこないの、どうしても今日は言いたくて。琴浦地区には、中学校1校、小学校4校あります。この小学校、中学校の学校の校歌の中には必ず「由加山」が入っています。児島は3つの国立公園を持っているのはうれしい限りと昔から思ってたんですけど、この観光をよう活かしとらんのですよ。

《市長》

もったいないですよ。

《参加者J》

先ほども話が出ていましたが、玉野の深山公園のようなものを由加山にも、市の方も力を入れていただければいけるんじゃないかと思っています。せっかく「地域力を活かすまちづくり」ということなんで、鷺羽山、王子が岳を入れるのなら3番目で結構です、由加山を必ず入れてください。これも国立公園なんですから、少年自然の家やいろいろな施設もあります。われわれ琴浦町民にとってふるさとの山といったら由加山ということになるんで。

《市長》

倉敷市内で由加と金毘羅両参りが、一番昔からある観光地だと思います。江戸時代からの観光地ですから、もっとPRをした方がいいと思いますし、こっちは市で向こうは町で

すけど、金毘羅とは最近、まちづくりの面で連携を始めておりますので、琴平と両方タイアップしていけるようにできればいいなと思います。もうひとつ琴浦で、いつもすごいなと思っていますのは、鴻八幡宮のお祭りです。このお祭りは全国の中でも非常に珍しいお祭りだと思います。地域の中のみんが参加して、本当に力強いお祭りでありますし。でも、外から観光に来る方がまだ少ないような感じがします。鴻八幡宮のお祭りのすごい所をPRするのが非常に重要なことかと思いますが、今の所、外からの観光客はどうなんでしょうか。

《参加者 J》

まだ少ないです。地元の人でも先だって人権（推進委員会）の時にお話が出たんですけど、素晴らしい鴻八幡宮のお祭りを、せっかくまちを挙げてやっとなだから、もう少しPRしたらどうだということで、もう15年くらい前ですが、ポスターを考えたり地元の者がやっているの、観光の面と合わせてPRしていただければ、幸いかなと思います。

《市長》

わかりました。ありがとうございます。

《参加者 K》

王子が岳に民間業者が忘れた、新築した大きな建物がそのままあるんです。それをこれからは「障がい者のための楽園」にして欲しいんです。障がい者が喜んで生活ができる、障がい者専用の楽園。そして、10の大学の介護福祉の生徒さんが介護福祉の実習に来れる場所、そして卒業されて民間企業に就職される方も必ずその王子が岳の障がい者専用の楽園で研修をしたというお墨付きが市長さんから出たら、なおよろしいんじゃないかと思えます。

《参加者 C》

反論したいです。

「障がい者の楽園」といわれるそれは、今の世界情勢は、障がい者は一般と同等の権利を主張しているわけで、離れた所に障がい者だけが集まってというのは障がい者は望んでいないんです。地域で同等に生活をしたい、だから障がい者が集まって楽しめる所には、一般の人も集まって楽しめる、それが障がい者が望んでいることなんで、その辺は反論したいです。

《市長》

いずれにしましても、今の所、活用が進んでないというのが現状ですので、なんとか進まないといけないと思っています。少しでも、地域のためになるように頑張りたいと思います。それくらいしかまだ言えなくて、すみません。

《参加者 L》

市民の生活が豊かになるためにいろんな建物、ハードを作ったり、ソフトをいろいろ考えたりと思います。今回は市民交流センターがもとの案の場所に帰ったということは、非常にいいことであると思うんですけども、やはり建物、ハード面にしてもソフト面にしてもばらばらで、これを解決するにはやはりネットワーク化と、いかに連携したものをマネジメントしていくか。その辺は、人のパワーが非常に必要になってくると思うんです。市民交流センターが、市民交流プラザの修復も含めて新しくできるということで、あの周辺で、南から行けばJRの駅があり、新しいプラザができる、それから旧南保健所、ファ

ッションセンター、それから架橋記念館、またプールもある。歩いて行ける間隔の中にある程度のものでコンパクトにまとまってできてくると。多分それに外れるのが支所と税務署です。あと交通問題ですが、駐車場がどうなるのか、本当はコンパクトになっていれば、一つの駐車場でその周辺を全部回れば一個で済むんですけど。今度、駐車場を管理していくと駐車料金の問題がある。この辺の連携がぜんぜんなされてないです。問題が出てくるのが、文化センターも含めて会議室がいくらぐらいあるかみなさんご存知でしょうか。建物ごとにみんな会議室だらけなんです。料金設定はまた別々です。1000円程度の会議室ができると、ファッションセンターの会議室はすごく高くなります。そういう情報を含めて、いかにコントロール、マネージメントするか。観光にしても、3、4箇所国立公園は児島にあるんですけども連携とかコントロール、マネージメント、そういう力がないから作ってもばらばらになって、何年か経ったら使われない。

今回、交流センターが新たになるのでチャンスということで、その周りにある、市民病院もプールも市民の近い所に持ってくれば、あの周辺で児島と言うか、倉敷全体をずっと発信していけるように、線上に広げていければ、もっと広がりを見せるのではないかと。そういう連携、マネージメント力とかみなさんのいろんな意見聞きながら、気になったので。市長に今の図書館、公民館、それから橋の公園がこの後どうなるのか、その三点だけ質問ということでお願いします。

《市長》

はい。今の図書館と公民館は、まだ現状そのまま、先行きは決まっておられません。そして橋の公園については、少し手を入れまして今よりは絶対新しくなりますので、少し周りの整備をするというぐらいになります。

《参加者 L 》

あれが単独で地続きになるんだから、管理者は別々になるんですよね、そしたらあそこは絶対に市民交流センターが管理すべきだと思います。

《市長》

すみません、橋の公園の管理をどこがするというのは私も今覚えてないんですけど。

《参加者 L 》

すみません。後ろからこれから考えると書いてます。そういう面を特に重視してほしいなど。

《市長》

分かりました。とにかく、ばらばらにならないようにやっていきたいと思ひますし、会議室とか、こっちは何が何個あってこっちはいくらで貸しているとか、今度の市民交流センターができることによって児島の文化センターの会議室はあまり使われなくなるかもしれません。そしたら、児島の文化センターの会議室が違うものに使ってもらえるようにできればいいと思ひますし、そういう、全体のマネージメントをするのは市の仕事です。

市がまず方針を決めて、そして委託を出すことになると思ひますので、これはこうしか使っちゃダメだとかそういうことじゃなくて、使っていき易いような方向を、その需要と供給を見極めて、その部屋の管理をやってもらうように委託のお願いの仕方をするとか、融通がききやすいようにやっていきたいと思ひます。

《市長》

それでは予定の時刻になりましたけれども、どうしてもこれだけは言いたいという方はいらっしゃいませんか。

《参加者 C 》

一番最初に「児島障がい者施設センターはばたき」を話させてもらったんですけど、今の建物が、三障害ということになるので、大変使いにくいんです。二階に大きな調理実習室があって、階段しかなくて車いすの方が上がれないんです。エレベーターをつけるとか何年かでいろいろ試行錯誤したんですけど、やっぱりできないという問題があるので考えていただきたいと思います。

《市長》

一度見学に行かせていただきたいと思います。今日は長時間にわたりまして、みなさま大変ありがとうございました。児島の新しい場所ができる所が結構多くなると思いますし、由加山、鴻八幡を始めとする児島の地の昔からある、観光地、文化遺産、素晴らしい景観を、一生懸命、みなさんと一緒に発信をしていきたいと思います。私一人、もしくは市役所の人だけで発信しても人数も限られていますので、日頃からぜひともみなさんにおかれましても、一緒に自分の住んでいる所はいい所だということを一緒に発信していただきたいと思っております。本日は長時間にわたりまして大変ありがとうございました。